

# 原子力防災のしおり

## 1 原子力災害とは？

原子力発電所などでの重大事故の発生によって、放射線や放射性物質が大量に放出されることにより生じる災害です。

大量の放射性物質を体に取り込んだり、放射性物質から出る放射線を大量にあびたりすると体に悪い影響が生じることがあります。

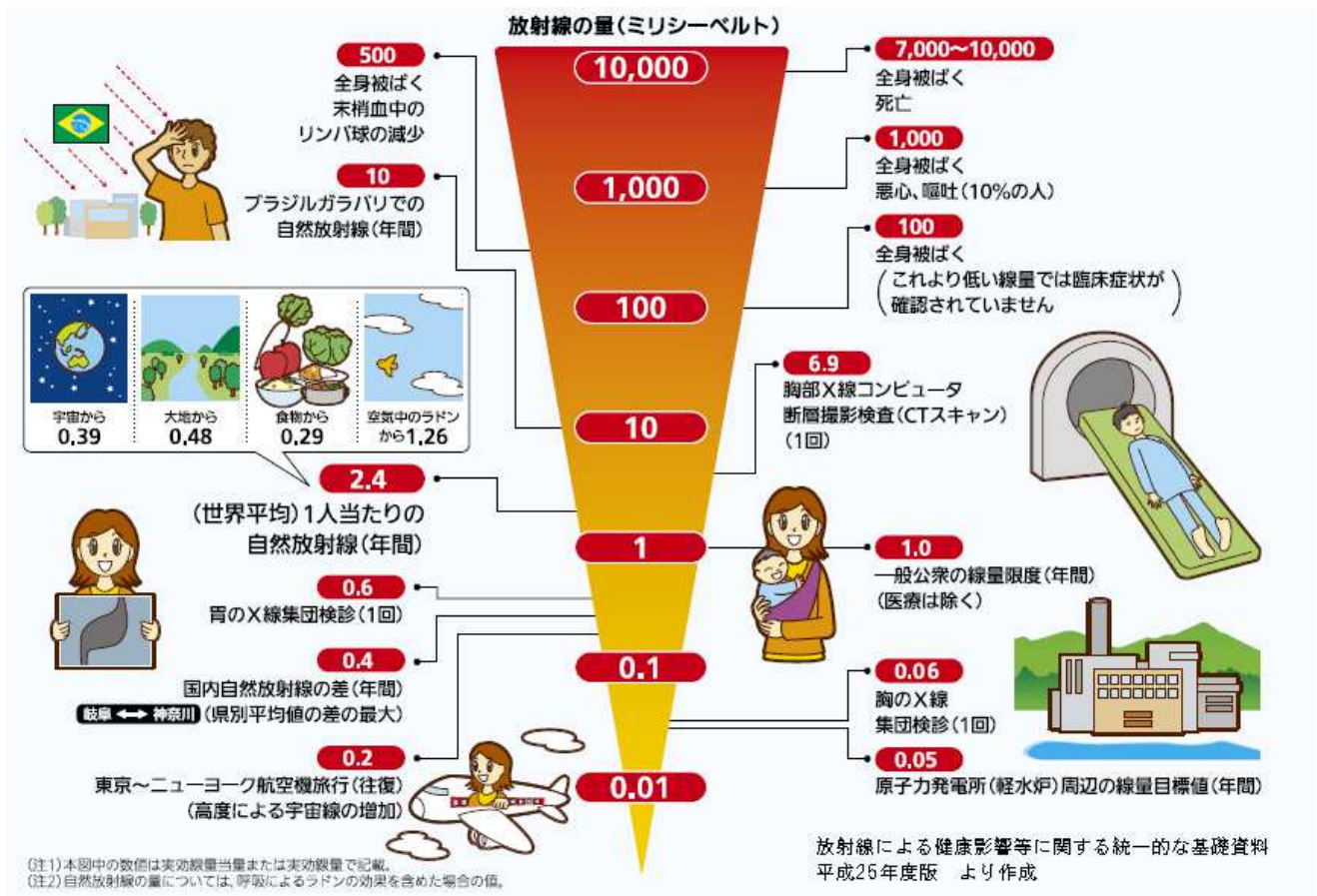
## 2 原子力災害の特徴

地震や風水害など他の災害と違って、体や環境への影響がどの程度あるか、五感で感じることができません。適切に対処するためには、放射線に関する知識や周辺の被害状況などを把握する必要があります。自分で判断しないで、国や県、市町村の指示に従うことが大切です。

本県内には原子力施設がありません。最も近い東北電力女川原子力発電所も、県境から約77 km離れています。国の原子力災害対策指針において、事故に備えてあらかじめ色々な準備をすることとされている区域（UPZ）は、原子力施設から概ね30 kmとされており、県内では特別な対策は必要ないとされています。

しかしながら、原子力災害が人間の五感で捉えられないといった特殊な災害であることや、想定を超えるような事態が発生することも考慮し、原子力災害時にどう行動すべきかをあらかじめ知っておくことが重要です。

## 3 放射線の体への影響は？



## 4 原子力災害時に県民のみなさまにとっていただきたい行動

### (1) 落ち着いて、正確な情報を入手する

国、県、市町村では、事故の状況や対応状況、住民への指示など、安全のために必要な情報を、わかりやすく、具体的に、くりかえしお知らせします。

テレビ、ラジオや広報車、防災行政無線、県ホームページなどを通じて、正確な情報を入手してください。デマに惑わされず、冷静に行動することが重要です。

なお、電話が混み合って通じなくなりますので、緊急以外の電話はひかえるとともに、電話による問合せはしないようにしましょう。

### (2) 飲食物や水道水の摂取制限

原子力災害時には、国や県などが水道水や食品の検査を行います。基準を超える汚染が見つかった場合は、出荷制限や摂取制限により摂取されないようにします。

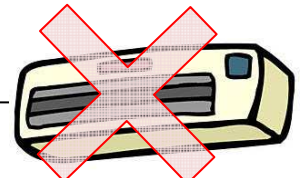
自分で採取した農産物や野草などは、安全性が確認されるまで食べることは控えましょう。

### (3) 屋内退避の指示があった場合

屋内退避の指示が出たときは、自宅などの屋内に入り、ドアや窓を全て閉めてください。建物の気密性と遮へい効果により、被ばくを減らすことができます。

#### <屋内退避のポイント>

- ・換気扇や住宅の換気設備、エアコンを止め、すき間をふさぐなどして外の空気を入れないようにしてください。
- ・外にいた人は手や顔をよく洗い、うがいをしましょう。着ていた服を脱ぎ、ビニール袋に入れて袋の口をしっかりと閉めておきましょう。特に指示があった場合はシャワーを浴びて洗髪してください。
- ・洗濯物は室内で干してください。
- ・指示があるまで外出しないようにしましょう。そのため日ごろから、食品、飲料水を備蓄しておくとともに、念のため飲料水を密封容器に汲み置きして確保しましょう。
- ・防災行政無線、テレビ、ラジオによる広報などの情報に注意してください。



使用しない!

